

平成16年度決算報告書

国立大学法人岡山大学
(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	19,892	19,892	0	
施設整備費補助金	1,054	135	△919	(注1)
施設整備資金貸付金償還時補助金	33	98	65	(注2)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	0	0	0	
自己収入	26,685	26,457	△228	(注3)
授業料及び入学金及び検定料収入	8,105	7,074	△1,031	
附属病院収入	18,390	18,977	587	
財産処分収入	0	0	0	
雑収入	190	406	216	
産学連携等研究収入及び寄附金収入	3,053	5,583	2,530	(注4)
長期借入金収入	769	767	△2	(注5)
計	51,486	52,932	1,446	
支出				
業務費	44,422	43,382	△1,040	(注6)
教育研究経費	19,760	21,795	2,035	
診療経費	16,398	20,208	3,810	
一般管理費	8,264	1,379	△6,885	
施設整備費	1,823	902	△921	(注7)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	3,053	3,098	45	(注8)
長期借入金償還金	2,188	2,250	62	(注9)
計	51,486	49,632	△1,854	
収入－支出	0	3,300	3,300	

○ 予算と決算の差異について

- (注1) 施設整備費補助金は、予算を917百万円繰越したことなどにより、予算額に比して決算額が919百万円少額になっています。
- (注2) 施設整備資金貸付金償還時補助金は、補正予算が措置されたため、予算額に比して決算額が65百万円多額になっています。
- (注3) 授業料及び入学金及び検定料収入は、授業料の前倒し収納を行わなかったため、授業料収入が予算額を682百万円下回ったことなどにより、予算額に比して決算額が1,031百万円少額になっています。
附属病院収入は、診療単価の高い手術の件数が増加したことなどにより、予算額に比して決算額が587百万円多額になっています。
雑収入は、承継剰余金を142百万円受入れたことなどにより、予算額に比して決算額が216百万円多額になっています。
- (注4) 産学連携等研究収入及び寄附金収入は、承継委任経理金を2,167百万円受入れたことなどにより、予算額に比して決算額が2,530百万円多額になっています。
- (注5) 長期借入金収入は、落札額が予算額を下回ったため、予算額に比して決算額が2百万円少額になっています。
- (注6) 業務費は、会計基準に基づき学内予算の考え方を見直し、診療経費には附属病院に係る業務費を全て計上しました。なお、業務費総額は、常勤職員の退職手当が予算額を862百万円下回ったことなどにより、予算額に比して決算額が1,040百万円少額になっています。
- (注7) 施設整備費は、注1に示した理由などにより、予算額に比して決算額が921百万円少額になっています。
- (注8) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等は、注4に示した理由などにより、予算額に比して決算額が45百万円多額になっています。
- (注9) 長期借入金償還金は、注2に示した理由などにより、予算額に比して決算額が62百万円多額になっています。

○損益計算書と決算報告書の集計区分の差違について

- (1) 損益計算書では、長期借入金収入は負債の増加であるため計上されていませんが、決算報告書には収入として計上されております。
- (2) 損益計算書では、人件費は役員人件費、教員人件費、職員人件費に計上されていますが、決算報告書では、財源により業務費の教育研究経費、診療経費と産学連携等研究経費及び寄附金事業費等に計上されております。
- (3) 損益計算書では、寄附金及び間接経費は業務費の各区分に計上されていますが、決算報告書では産学連携等研究経費及び寄附金事業費等に計上されております。
- (4) 損益計算書では、長期借入金償還金は、元本の返済部分は負債の減少であるため、計上されていませんが、決算報告書では支出として計上されております。また、同じく決算報告書上で長期借入金償還金の支出として計上されている借入利息の支払額については、損益計算書では財務費用の支払利息として計上されております。